

平成21年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470901347	事業の開始年月日	平成17年9月1日	
		指定年月日		
法人名	スターツケアサービス株式会社			
事業所名	グループホームきらら日吉			
所在地	(223-0051) 横浜市港北区箕輪町3 - 13 - 23			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	平成22年1月16日	評価結果 市町村受理日	平成22年5月31日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1470901347&SCD=320
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者との関係を大切に、家庭的な雰囲気を保てるように努めています。また、利用者が安全で健やかに生活していただけるように、目配りや気配りをチームで大切にしています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌファースト 3階		
訪問調査日	平成22年2月17日	評価機関 評価決定日	平成22年4月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

首都圏の東京、千葉を中心に数多くのグループホームを持つ「スターツケアサービス株式会社」が運営する「きらら日吉」は、平成17年9月に開設されたグループホームで、入居者の個性を大切にしている家庭的な雰囲気を持つ事業所です。このグループホームの優れている点としては、まず入居者本位のケアを考え、本人のしたいことを念頭におき、センター方式の介護計画書や焦点情報等の数多くの様式を活用し、極め細やかなサービスを行うための体制が整えられていることです。その他、事業所建設時からのスプリンクラーの設置やトイレなどの照明の人感システムを導入するなど設備面での配慮もなされています。また、かかりつけ医が月2回往診に来るなど入居者が安心して生活できる体制があります。この事業所の工夫している点としては、外出することに重点をおき地域との交流を図っていくこととしてのことです。天候が許すかぎり散歩に午前・午後の2回行ったり、職員が昼食・夕食の買いだしに毎日2回行っていますがその時に入居者も一緒に行くようにするなど外出の機会を増やしています。自治会に加入し、地域との交流も進めています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームきらら日吉
ユニット名	1F

アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム全体会議やユニットミーティングの場で、理念を共有している	理念は、玄関や事務所等に掲示していません。職員採用時の研修や全体会議、ユニットミーティングの場で理念を確認し、ケアをひとつの方向に向け、理念の実践に取り組んでいます。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園の園庭解放などに行くなどして、交流を図っている。日常的な交流は無いが、イベント等の時には交流がある。	自治会に加入し、自治会の配布物は役員の方が届けて来ています。新しく管理者が着任し、町内会長や民生委員の方に挨拶に行っています。近隣の幼稚園の園庭開放日に交流を図ろうと話をすすめています。	自治会に加入してはいますが、自治会主催の行事などに参加をしていません。今後は、地域の行事に参加するなど、地域との交流を深める取り組みが期待されます。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に向けて活かしているとは言えない。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については、現在準備段階。	運営推進会議は、管理者不在期間中は未実施でしたが、平成22年3月に1回開催の予定です。	初回の開催の後も定期的な開催と地域の方との交流、意見交換等が期待されます。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話連絡が中心となってしまっているが、利用者の情報のみならず生活支援の相談を行うことにも、ご協力をいただいている。	港北区の担当ケースワーカーとは、生活支援の相談等は絶えず連絡を取り合っています。1月に行われた横浜市健康福祉局主催の横浜市地域密着型サービス事業者等集団指導者講習会に参加するなどしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全員が正しく理解しているとは言い難いが、ユニット入り口の施錠をしない介護に少しずつ取り組んでいる。	フロアの鍵や玄関の鍵は一切施錠していません。法人の身体拘束禁止マニュアルを職員に周知しています。人権擁護に関する研修を受講し、職員の人権意識を高めています。12月に高齢者虐待に関する研修を職員が受講したことが記録されています。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本部において研修の機会を設けており、その内容についてはミーティングなどで共有して、防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本部において研修の機会を設けており、その内容についてはミーティングなどで共有して、防止に努めている。学ぶ機会はある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居見学や申し込みの場面でも、出来るだけ本人の同席をお願いしている。また、不明な点に関しては、出来るだけわかりやすく説明するように努力している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に意見箱を設置している。面会等で来られた時に意見・要望を職員間で共有している。また、家族会の内容もファイリングして何時でも閲覧が出来るようになっている。	入居者や家族との面接や電話連絡、受診の内容等を「支援経過記録」に詳細に記録し、職員間で情報を共有しています。家族の意見をとり入れ、毎日ラジオ体操を実施しています。玄関にご意見箱を設置し、いつでも入居者・家族が意見を言えるようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム全体会議やミーティングの際に意見を聞いている。また日ごろより個々に声を掛け意見を聞いている。	月1回の全体会議やユニットミーティングで事業所の運営方針を職員に周知し、職員の意見を聞いています。職員から備品の整備に関する改善提案があり採用した事例があります。また、日々の申し送りノートを活用し、職員の意見を把握しています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて、社長や人事担当者がホームに出向き、職員と面談をし、職場条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内のみではなく社外での研修も受ける機会が設けられている。研修の案内があるときには参加するように勧めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社内でのネットワーク作りは活性化しているが、同業者との交流は、電話連絡が中心となっている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホーム長やリーダー・計画作成担当者が本人と話す機会を作っているが、他のスタッフも日々声掛けやかかわりので、状況把握に努め共有している。本人が安心できるように努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望等に応えられるように相談しながら、努力している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談の際に、必要とされている支援を見極めるために、ご本人を中心に家族と一緒に話し合い、サービス提供に向けての努力をしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に調理をしたり、食事を摂ったり、少しずつ取り組んでいる。家族のような関係を築くように努力している。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人も大事であるが、家族も大事であると考えている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりの馴染みについては把握しきれていない。	入居者の希望に応じています。家族の了解も得て友達など本人の馴染みの人に来てもらうようにしていますが、入所後時間が経つにつれて少なくなっています。散歩のときは地域住民と気楽に挨拶を交わし顔馴染みになっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の様子や会話の中から関係の把握に努め、席や活動などを考慮している。入居者同士の関わり合いは多くは無いが、このような支援をするように努力をしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された家族からも、時々病状報告の連絡をいただくこともあった。また、職員もお見舞いに伺った際には、その時のご様子から必要に応じ、何時でも相談に応じる準備があることをお伝えしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントやモニタリングの際、意向の把握に努めている。本人の希望や意向を尊重している。	センター方式のアセスメントシートを活用し、入居者ニーズの把握に努めています。特に本人の生活リズムを尊重し、生活パターンを変えないように配慮しています。3ヶ月ごとのサービス担当者会議で、入居者ニーズに対する職員意識の共有を図っています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、ご家族の協力も得ながら、アセスメントを行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察し、状況把握に努めている。本人のペースに合わせた生活ができるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>必要時には担当者会議を行うなどして、現状に即した計画を作成している。</p>	<p>アセスメント情報をもとに個別支援計画を策定しています。3ヶ月ごとにモニタリングを行い課題ごとに評価します。サービス担当者会議で入居者ごとに課題を検討し支援計画の見直しを行います。入居者の状況に応じ、毎月モニタリングを行うケースもあります。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日ごろの気づきをケース記録に記入し、出勤時にはケース記録に目を通して共有している。モニタリング時には、改めて1ヶ月分を目を通して、ケアの確認、見直しに活かしている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>現在は取り組めていないが、今後は取り組めるようにしていきたい。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>把握しきれていないため、今後少しずつ把握に努めていきたい。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>往診時に心身状況の報告を行うと共に、必要時にはかかりつけ医へ連絡し、報告や指示を仰ぐことにしている。</p>	<p>入居者の希望に応じてかかりつけ医を決めています。往診は協力内科医の月2回と歯科医の週1回です。年1回健康診断を受診しています。糖尿病や高血圧の入居者に対し、協力医のかかりつけ医が臨機応変に対応してくれています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関の看護師に、症状観察のポイントを必要に応じてアドバイスをいただいている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、情報提供を行うと共に、退院前にも情報交換し、医療機関の意見も取り入れケアプランに活かしている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人と家族のご希望の中で、ホーム内の設備や医療対応について、困難な場合があることを家族との協議の中で随時検討している。また、協力医療機関との連携を図り、他施設への検討もしている。</p>	<p>重度化や終末期の対応は、事業所として困難であることを契約時に説明しています。重度化に際しては協力医療機関と連携し、入院や他施設への移設を前提に対応しています。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的な訓練は行われておらず、すべての職員が実践力を身に付けているとは言えない。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の避難訓練を通して、避難方法を再度確認し、災害時備品については、保管されているが管理表をもって理解しているが、今後は職員全員が保管場所や内容等詳細を周知していく。</p>	<p>「防災の手引き」を整備し、「防災体制について」を掲示しています。「防災グッズ管理表」を整備し備蓄をしています。また、自治会に災害時要援護者名簿を提出しています。21年度の避難訓練は平成22年3月に実施予定です。</p>	<p>管理者不在期間があり、避難訓練を実施している記録がありませんでした。年2回の避難訓練を実施し、記録を残す取り組みが期待されます。</p>

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した言葉掛け対応を行っている。また、入居者が行ったこと(例えば掃除・調理等)に対して、感謝の言葉を伝えていく。	玄関に「個人情報のお取り扱いについて」を掲示しています。入居者のプライバシーを侵害することのないよう、日々の言動への注意を促しています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら、決定できるような声掛けを行い、見守っている。	/	/
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	極力、一人ひとりのペースを大切に支援するように心掛けている。職員の体制により、希望に添えないときもある。	/	/
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介助が必要な場合であっても、本人が服を選べるように、声掛け見守りを行っている。	/	/
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	共に調理をしたり、食事を摂ったり、少しずつ取り組んでいる。買い物や食事の準備・片付け等一緒に行っている。手伝っていただく方は決まってしまう。	職員が新鮮な食材を使用するように毎日買出しに出かけ、入居者も一緒に買い物に行くようにしています。献立を立てる担当の職員を配置していますが、買出しの時に入居者の意見を聞いて献立を変更したりしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は記録し共有している。水分摂取出来ない時は、声掛けを行うか他の物をすすめ対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助や見守りの必要な入居者に対しては、毎食後ではないが、口腔ケアを行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄状況を記録し、共有するとともにパターンを読み取り、適宜トイレ誘導等を行っている。	センター方式の焦点情報(生活リズムパターンシート)に24時間の排泄の記録をしています。入居時にはオムツだった方がトイレ誘導によりリハビリパンツに改善した事例があります。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動を促すことは行っているが、個々に応じた予防には取り組めていない。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	状況をみながら、その日の入浴について決めてはいるが、声掛けをし、本人が望まない場合には無理強いはしていない。	ユニット日誌の確認項目において入浴の状況を確認しています。毎日バイタルチェックを行い、体調を考慮し入浴を促しています。希望に応じて毎日入浴をしている入居者もいます。ゆず湯やみかんの皮などを入れて季節を味わっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間等設けず、それぞれのペースで休んでいただいている。また状況に応じて、こちらから休息や入床をすすめている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法・用量については、理解している。副作用や注意点については、医師や薬剤師に確認し共有すると共に観察し報告をしている。お薬手帳の確認もしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの好きなことや得意な事を活かせる様に声掛け、見守りを行っている。(花の水遣り・調理等)玄関等に植木を置くなどして、努力している。コーヒータイムを作ったりしている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望は把握しきれではないが、車椅子や車を使用しながら出掛けられるように支援している。戸外へ出掛けられるように支援している。	散歩は、天候が許す限り毎日午前・午後の2回行っています。職員が日に2度の食材の買い出しに行くときにも一緒に出かけています。誕生日会やお花見などにも外出しています。個別の外出支援としては、通院に職員が付き添っています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持している方はいないが、希望があれば、お金のしまい場所を一緒に確認したり、買い物の際は本人が支払えるように見守りを行っていききたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度を確認し、調整している。 花を飾るなどして、季節感を出している。	リビングは空調が行き届いて快適です。 テーブルやいすの配置は、転倒事故を起こさないように入居者のADLに配慮しています。玄関のスリッパの置き方などにも細かい配慮をして事故防止に努めています。 玄関前の蜜柑の植木で入居者が楽しんでいきます。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろげるよう、テーブルやソファの位置を変えるなどの工夫をしている。 ダイニングテーブルには指定の座席があるがソファを置くなどして自由に過ごせるように工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、馴染みのものを持ってきていただいている。（写真・家具等）	居室は入居者の馴染みの家具や置物で个性的です。居室ごとに洗面台があり、タンスや仏壇、肘掛椅子などを好みのものを持ち込んでいます。ベッドの乗り降りの位置を確認し、転倒事故が起きないように、置物の配置に注意しています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレドアには、わかり易く「トイレ」の表示をしたり、各居室前には名前の表示をするなど工夫している。		

事業所名	グループホームきらら日吉
ユニット名	2F

アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念は、いつも目の届く場所に掲示しており、職員採用時の研修やホーム内の全体会議やユニットミーティングの場で理念を確認し、共有を目指している。</p>		
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>近隣の方には、積極的に声を掛けるようにしている。又、近隣の幼稚園の園長先生からも是非とも交流したいとの話をいただいております。毎週木曜日が園庭開放日のため交流を深めていきたい。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>今後は、地域の会合等に積極的に参加し、いつでもご相談に応じられるような取り組みを行っていききたい。</p>		
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議を意見交換の場となるように整え、貴重なご意見やご提案を入居者へのサービス向上へ繋げられるようにしていく。</p>		
5	4	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>電話連絡が中心となってしまっているが、利用者の情報のみならず生活支援の相談を行うことにも、ご協力をいただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束禁止マニュアルを会社として作成しており、職員全員で情報共有し、実行している。ホーム内では、玄関を含め、施錠は一切行っていない。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止マニュアルを会社として作成しており、職員全員で情報共有している。また、虐待防止に関する研修には積極的に参加を促しており、日々のケアの中でも、職員同士も注意をしている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>入居者の方で権利擁護や成年後見制度を活用されているかたもあり、身近な存在である。又、入居申し込みの場面でも必要に応じて、ご提案や情報提供も行っている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居見学や申し込みの場面でも、出来るだけ本人の同席をお願いしている。また、不明な点に関しては、出来るだけわかりやすく説明するように努力している。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱の設置をはじめとし、入居者やご家族からのご意見は、そのつど職員間で共有している。また、運営推進会議においても、提案し改善に向けて、本部とも協議し努力している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティングのみならず、日々の申し送り等で職員からの意見や提案の機会を作っている。また、業務時間外でも話を聞くように努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務状況等あらゆる場面での本人の努力や実績を人事考課制度の導入により評価し、その結果を本人に説明する。また、折に触れ職員と話をしている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部が中心となつての社内研修を開催している。また、各職責に応じての研修体系が整ってきた。社外研修に関しては、職員全員で情報共有ができるようにして、個人のスキルアップに繋げている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社内でのネットワーク作りは活性化しているが、同業者との交流は、電話連絡が中心となっている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のご本人の見学の際、各ユニットで過ごしていただく時間を設けている。その時のご本人の表情やご様子から不安を感じられていることなどを察し、不安に対しての解決に向けて努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前のご相談の際に、ご心配や要望等について、十分に話を聞く時間を設け、また何時でも相談に応じる準備があることを告げている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談の際に、必要とされている支援を見極めるために、ご本人を中心に家族と一緒に話し合い、サービス提供に向けての努力をしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を敬う気持ちを大切にしながら、さまざまな年代のかかわりに場からそれぞれが役割を担っていることを感じていただきたいと、職員全員が思っている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを受け止めながら、生活の場所は変わっても、ご家族にしか出来ない役割を担っていることを考え様々な場面でご協力をいただいている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族のご了解をいただいて、遊びに来ていただいたり、ご本人の行きたい場所等に出かけるよう個別対応努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの生活背景の違いもあり、皆さんがうまくいくわけではないが、一人ひとりの価値観が主張できるように支援をしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された家族からも、時々病状報告の連絡をいただくこともあった。また、職員もお見舞いに伺った際には、その時のご様子から必要に応じ、何時でも相談に応じる準備があることをお伝えしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を使用し、日々の会話の中から些細な事柄についても情報の収集に努め、一人ひとりの思い・希望・意向に添うように努め、困難な場合には「わたしだったら」の視点を生かしながら行っている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報については、職員全員で共有し、理解を深めている。その後に把握した情報は、記録に記載し、職員間で情報の共有に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録などの記録類の活用により、職員間で共有している。また、日内変動や週内変動も踏まえて把握できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画が上手に機能はしていないが、日々、職員間で話し合うようにしている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット日誌や介護記録の情報を、申し送りやユニット会議等で共有し周知している。今後は、介護計画に生かして行きたい。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	きらら日吉としての、出来る限りの要望に対しては対応している。また、出来ない部分については、十分に説明をしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の民生委員や保育園との交流も少しずつ活性化してきている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	かかりつけ医師の選択は、希望を優先している。提携医については、臨機応変に対応可能な医師で、職員も安心している。また、必要時には、ご家族に直接説明をしていただけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関の看護師に、症状観察のポイントを必要に応じてアドバイスをいただいている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は、本人の状態確認のため、お見舞いに伺ったり、担当者と随時連携をとりながら情報交換を行い、早期退院に向けて関係づくりに努めている。退院後は、かかりつけ医師との連携が取れている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人と家族のご希望の中で、ホーム内の設備や医療対応について、困難な場合があることを家族との協議の中で随時検討している。また、協力医療機関との連携を図り、他施設への検討も行っている。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>会社の、マニュアルは整備されており、AEDも設置されているが使用方法等について今後は周知していく。また、救命講習や応急手当講習等にも積極的に参加していく。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の避難訓練を通して、避難方法を再度確認し、災害時備品については、保管されているが管理表をもって理解しているが、今後は職員全員が保管場所や内容等詳細を周知していく。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人が、不快な思いをされないような、言葉掛けを行っている。また、個人情報等に関する書類の管理については、鍵のかかるキャビネットを使用している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人への説明を大切と考え、支援を行っている。また、選択肢を提供するなどの配慮を行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切にし、一日の細かい決まりごとや予定は作っていない。その日の天候等で買い物等外出に関しては、ご本人の希望を取り入れている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みのお店にカットに出かけたり、ご家族によるカットをご希望の方には連絡調整を行っている。また、ご希望の方には、訪問理美容を活用している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使用して季節感を味わっていただき、入居者と一緒に買い物に出掛ける事により、入居者の好みを取り入れている。ただし、準備や後片付けについては、協力が得られにくい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事や水分については、毎回記録して共有している。今までの習慣は大切にしながら、栄養については留意している。、その日の体調や状態に応じて対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けを行い、その方の状況に応じて、介助や見守りを行っている。また、口腔状態に応じた歯ブラシを使用している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄に関する失敗やオムツ使用を減らしていくために、排泄の状況をその都度記録したものを共有し、必要に応じてカンファを行い排泄の自立に向けた、個別の対応策を検討している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その方の排泄パターンや疾病を理解した上で、飲食物の工夫は行っている。運動については、非積極的であるため、買い物にお誘いしたり、散歩やお庭に出られるように声掛けをしている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	状況をみながら、その日の入浴について決めている。また、ご本人が望まない場合には、無理強いせず、時間をずらしたり、曜日を変更するなどして対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中であっても、休息をしたいときには妨げず、様子観察をしている。就寝時には、消灯時間等は設けず、ご本人の意思に任せ、フロアで一緒にテレビを觀賞することもある。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法・用量については、理解している。副作用や注意点については、医師や薬剤師に確認し共有するとともに観察を行い、常に報告・相談が出来る体制となっている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴等から、今ご本人の出来ること・出来ないことを把握し、ホームでの生活の中で本人の役割を見つけ出し、生きがいを持った生活が出来るように支援していきたい。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の買い物は、入居者と一緒に出掛けるようにしている。また、その時の買い物の内容によっては、社用車を使用して少し遠出をすることもある。ご家族と一緒に外出に出かけることもしている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金を所持している入居者はいないが、自分で所持したいとの希望があった場合には、買い物の際に、ご自分で支払っていただけるように、見守りを行っていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から、希望があった場合には、支援をしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、温度や湿度については調整している。玄関や庭には季節の花や果実を植え、楽しんでいただいている。居間にも、季節ごとに四季を感じる花などを飾るようにしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが、くつろげる様にテーブルやソファの位置を変えるなどの工夫をしている。ダイニングテーブルには指定に席があるが、ソファを置くなどして自由に過ごせるようにしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に、お持ちいただく家具等については今までの馴染みのものをご持参いただくように説明をしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、職員の手を借りなくても、出来るような環境にあります。一般の家庭に近い自然な住居になっています。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	定期的な運営推進会議が開催できていないから、定期的(2ヶ月1回)に開催する	会議を通して、地域に根付いた、開かれたホームを目指す	偶数月のホ2(水)13:30~委員の方の出席の上、開催されて、意見交換の場となっている	12ヶ月
2	2	自治会には、加入しているが自治会主催の行事や会合等には参加していない	入居者ひとりひとりが、地域の住民の一人として、生活をしていけるようになる	自治会主催の相談会(認知症について)への出席の誘い、又は参加、又地元保育園の行事参加	12ヶ月
3	35	年2回の消防訓練の実施と記録がなされていない	消防署参加のほ、年2回(4月・10月)の訓練を実施し、その時に入居中の方の避難方法の指導を受ける	消防訓練の際に、地域の方の住民参加をお願ひし、協力体制が整いつつある	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。